

線状降水帯の予測精度向上等の防災気象情報の高度化対策【国土交通省】

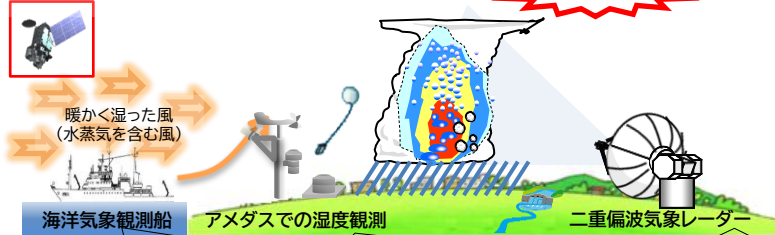
- 施策概要** 水蒸気等の観測強化及び最新のスーパーコンピュータ導入等や情報システム更新等による予測の強化により防災気象情報を高度化
- 効果** 防災気象情報を段階的に高度化することで、国民ひとりひとりに線状降水帯による大雨の危機感をより早く伝達

 気象庁
 
 線状降水帯の予測精度向上等の防災気象情報の高度化対策

■ 全国的な対策と効果

<次期静止気象衛星やアメダス、気象レーダー等による水蒸気等の観測を強化>

次期静止気象衛星(R5整備着手)
令和12年度の運用開始を目指す



R6.3に凌風丸を更新整備し、運用	687地点運用(R8.3)	15地点運用(R8.3)
-------------------	---------------	--------------

<強化した気象庁スーパーコンピュータ等を活用し、予測技術を高度化>

(左)気象庁スーパーコンピュータシステム…R5更新
(中央)線状降水帯予測スーパーコンピュータ…R4運用開始
(右)スーパーコンピュータ「富岳」R3より予測技術高度化に活用開始

【活用事例：線状降水帯の半日程度前からの呼びかけ】

R6.5から対象地域を地方単位から府県単位に絞り込んでの呼びかけを開始。

旧運用 九州北部地方、九州南部・奄美地方 (9府県)
新運用 大分県、宮崎県 (2府県)
絞り込んで発表の対象地域を

3時間降水量 2025年9月4日19時00分
宮崎県で線状降水帯が発生

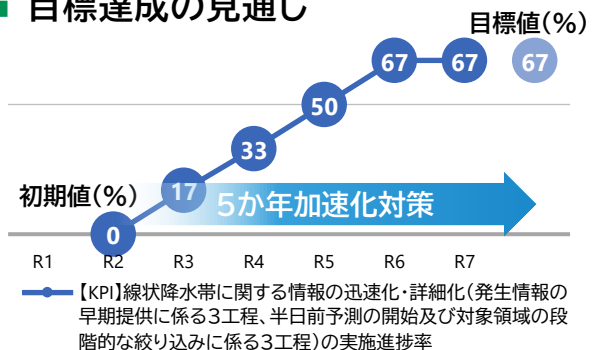
実際に宮崎県にて「顕著な大雨に関する気象情報」を発表

■ 予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
52億円	258億円	656億円
R6	R7	累計
219億円	223億円	1,408億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

■ 目標達成の見通し



(1) 人命・財産の被害最小化

(2) 交通・ライフラインの維持

1 激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

2 インフラの老朽化対策

(1) 施策のデジタル化

3 国土強靭化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進

(2) 災害関連情報の高度化